

## 寒締め白菜で元気付ける

仮設住宅の住民が収穫を体験



寒締め白菜を収穫する仮設住宅の住民

津波で被災した仮設住宅などに入居する住民を元気付けようと、千厩町奥玉の小野寺勝義さんは12月15日、旧千厩中学校跡地の仮設住宅と気仙沼市本吉地区の仮設住宅の住民と一緒に寒締め白菜の収穫を行い、収穫した白菜を贈りました。

小野寺さんが約30<sup>ヘクタール</sup>の寒締め白菜の圃場を開放し、同住民23人で収穫を体験しました。県一関農村整備センター職員らも応援し、3台のトラックいっぱい積み込みました。

千厩の仮設住宅に住む小山俊正さんは「畑に入ることによって気分転換にもなり、立派な白菜を頂けることはありがたい。一足早いクリスマスプレゼントだね」と笑顔を見せました。小野寺さんは「自分なりの手伝ができてうれしい」と話しました。

## 手作りアップルパイに満足

あぐりきっず(川崎)



リンゴの並べ方を教える菅原さん

J A川崎管農センターは12月11日、「川崎産りんごでおおきなアップルパイをつくろう」を川崎公民館で開きました。

10家族25人が参加し、J A生活シーダーの菅原君代さんを講師に迎えました。材料のリンゴは、菅原さんが栽培したふじを使い、まず八つ切りにしたリンゴの皮をむきました。フライパンにバターを溶かしてリンゴを入れ、グラニュー糖を少しずつ加えてアップルフィリングを作ります。タルト型にはリンゴ5個がたっぷり入りました。パイシートを細長く切って上から格子状にのせ、溶き卵を塗ってオープンへ。みんなで作ったアップルパイは味も格別です。「リンゴがおいしい」と口々に話し、「家でも作りたい」と、出来栄に満足していました。

## 農林業に貢献した担い手を表彰

一関地方農林業振興大会



担い手部門など3団体・5人を表彰

第6回一関地方農林業振興大会が11月24日、農林業従事者など約350人が出席し、藤沢町の藤沢交流センター（縄文ホール）で開かれました。

3部門で3団体・5人が一関地方農林業賞を受賞。受賞者が活動成果などを発表しました。また、津波で大きな被害を受けた陸前高田市の老舗しょうゆ・味噌醸造業の八木澤商店の河野和義会長が「ふるさとは負けない!」と題し記念講演を行いました。

受賞者は次の通り。(敬称略)▽担い手部門賞＝佐藤正己・佐藤まゆみ(花泉町)佐藤喜明・佐藤愛理(大東町)ほんごう営農組合(萩荘)▽いきいき実践活動部門賞＝農事組合法人ときの森ファーム(千厩町)農事組合法人京津畑やまあい工房(大東町)▽明日を拓く担い手部門賞＝金野潤(大東町)

## 組合員同士の親睦深める

おくたま農産収穫感謝祭



盛大に行われたおくたま農産収穫感謝祭

第4回おくたま農産収穫感謝祭が12月3日、同組合の倉庫で開かれ、地域住民や組合員ら約120人が会場を訪れました。

参加者は、振る舞われたつきたてのお餅や、地元野菜をふんだんに使った豚汁に舌鼓をうち、米粉、みそ、米こうじ、漬け物などの加工品の販売やものまね歌謡ショーなどのアトラクションも楽しみ、会員相互の懇親を深めました。

佐藤正男組合長は「未曾有の大震災の被害の中、今年には天候に恵まれ作業も順調に進み、豊作となっている。農作物の収穫に感謝し、会員の皆様のより一層の協力と連携をお願いしたい」と述べました。

## 県下JAが特産品を持参し結集

JAおおふなと復興軽トラ市



当JAはリンゴや白菜、牛乳など持参

東日本大震災で大きな被害を受けたJAおおふなとで12月3日、「JAおおふなと復興軽トラ市」が開かれました。

当JAを含む県内7JAが、軽トラやワゴン車などに、野菜や果物、米、加工品などのそれぞれJA自慢の特産品を積み込み、大船渡市盛町にあるJAおおふなと本店前に結集。仮設住宅などでの生活を強いられている組合員や地域住民などに青空販売をしました。来場者は新鮮で市価より安い県内の特産品に喜んでいました。

参加したJA農政対策課の藤野秀一課長は「JAグループの結集力で、このような活動を行い、来場者の笑顔を見ることができてうれしい」と述べました。

## JA職員から農業経営を学ぶ

千厩高校が農業経営特別授業



計5回の農業経営授業を行う予定

現場で実践している農業経営を学ぼうと、千厩高校の生産技術科・生産科学コース（3年生18人）は農業経営の特別授業を11月30日から開始しました。

この特別授業は農業の生産や流通を学ぶ実践教育の総まとめで、流通現場に詳しいJAの営農指導員により1月まで計5回の授業が行われ、今年度で6年目を迎えます。

講師のJA農政対策課の荒川透マネージャーは「ただ作物を作っても、売れないと収入が得られない。それをいかに販売していくかが大事」とマーケティングのポイントを説明しました。授業を受けた那須翔さんは「現場の流通の関わりがとても興味を持てた。今後に役立てていきたい」と意欲を見ました。

## 全国へふるさとの味を発送

大東うぐいす便



12月2日の出発式

大東観光物産協会による「大東うぐいす便」の出発式が12月2日、JA大東営農センターで行われました。

田舎コースなど15コースを発送



大東町のリンゴ、漬物、お正月用のもち、なたね油、山ぶどうジュースを詰め合わせた田舎コースをはじめとする自然な食卓コース、お歳暮コースなど全15コース。32回目となる今回は、全国から861セットの申し込みがあり、協議会関係者らが箱詰め作業を行い、全国へふるさとの味が発送されました。

## 親子で楽しくケーキ作りに挑戦

JA女性部室根中央支部



カボチャのレアチーズを作成中

JA女性部室根中央支部は12月11日、幼児から小学生を対象に「親子ケーキ作り教室」を開催しました。

今年の女性部統一企画は「カボチャ」、手軽に作れる「カボチャのレアチーズケーキ」と「もっちりピザ」に挑戦しました。

エプロンに三角巾と腕まくりでさっそく作業へ。お家の人と一緒に焼いたり混ぜたり盛り付けたりと、小さい子も小学生のお姉さんも一生懸命です。

出来上がったケーキとピザをみんなで試食。佐藤幸子部長が「簡単だからお家でもまた作ってみたい」と挨拶すると参加者は「おいしいね」「今度作ろうね」と話をしながらあっという間に完食しました。